

最前線でコンクリート舗装技術磨く

佐藤渡辺は、国土交通省関東地方整備局が発注した「中部横断富士楮根地区舗装工事（山梨県南都町）」で、独自開発した「縦取り式スリップフォーム工法」によるコンクリート舗装を実施した。アスファルト舗装と比較し、コンクリート舗装工事は圧倒的に発注件数が少ない。貴重な機会を生かし、コンクリート舗装の技術をどう磨いていくのか。現場の最前線で奮闘する技術者の思いは、

「これからは若手の時代。現場の若手技術者にはコンクリート舗装の後継者になってほしい」。そう話すのは、中部横断富士楮根地区舗装工事現場代理人を務める吉村祐二さん。吉村さんは佐藤渡辺の中で数少ないコンクリート舗装の技術者だ。これまでもコンクリート舗装工事を中心に4〜5現場を手掛けてきた。

今回の工事は、同社が関東整備局管内で縦取り工法を初導入した案件。そのため、コンクリート舗装の経験がある吉村さんが関西の拠点からこの現場に配属された。現場には吉村さんを含むベテラン職員と20〜30代の若手職員がそれぞれ4人いる。人員配置にはコンクリート舗装の技術をベテラン技術者から若手技術者に継承するという会社の意図が込められている。

コンクリート舗装は2車線分のスペースを使ってコンクリートを打設する「横取り式」が一般的だ。横取り式ではあらかじめ鉄筋を組んだ状態にして、片側車線で舗装機械「スリップフォームペーパー」を使ってコンクリート打設か

中部横断富士楮根地区舗装工事



辻 監理技術者

現場を担う

現場代理人×監理技術者



吉村 現場代理人



縦取り式スリップフォームペーパーを使ってコンクリートを打設した

縦取り式は片側の車線だけでコンクリートの供給からコンクリート打設、鉄筋の組み立てまでの作業を完結できる。縦取り式は同社独自の「縦取り機」を使用。縦取り機としては道路舗装業界最長の33メートルのベルトコンベヤーが付いている。縦取り式は片側の車線だけでコンクリートの供給からコンクリート打設、鉄筋の組み立てまでの作業を完結できる。縦取り式は同社独自の「縦取り機」を使用。縦取り機としては道路舗装業界最長の33メートルのベルトコンベヤーが付いている。

段取り、配合、品質管理…実績積み若手育成



縦取り式ではコンクリート打設と鉄筋の組み立てを同時進行できる

「65センチと第二（130センチ）は2日、第一（800センチ）は4日で打設が完了した。2月25日時点の工事進捗（しんぱく）率は15%程度。吉村さんは「後は橋の踏み掛け版の施工やアスファルト舗装など、やることは多い。最後まで無事故無災害で完成を迎えたい」と意気込みを語る。

同現場の監理技術者・辻伸恭さんは3本のトンネルで同工法による打設を終え、「コンクリート舗装は初めて経験したが、段取りが大変ということが分かった」と振り返る。スリップフォームペーパーで打設するコンクリートには特殊配合の生コンクリートを使用する。「今回得た特殊配合の品質管理に関する知見を、今後の施工に生かしていきたい」と意欲を見せる。

同工事を管轄する佐藤渡辺関東支店の江口勝彦工務部部長は「国内の舗装全体に占めるコンクリートの割合は5%程度しかないが、近年その耐久性などが再評価される動きがある。今後コンクリート舗装が増え、コンクリート舗装の技術者のニーズが高まるだろう」と見通す。「今回のようなコンクリート舗装工事の受注実績を積み、施工するなかで若手技術者を育成していきたい」と話す。

- 工事概要**
- 工事件名＝中部横断富士楮根地区舗装工事
 - 工事場所＝山梨県南都町
 - 発注者＝国土交通省関東地方整備局
 - 施工＝佐藤渡辺
 - 工期＝18年10月31日～19年5月31日

